



子どものための体力向上サポートプラン 2018

平成30（2018）年度～平成33（2021）年度

平成30年4月

さいたま市教育委員会

目 次

I	子どものための体力向上サポートプラン 2018	
1	これまでの成果と課題	1
2	プランの基本方針	5
3	プランの目的	6
4	プランの目標	6
5	プランの指標	7
6	プランの期間	8
II	プランの具体的な事業	
1	握力・投力の向上	9
2	体育・保健体育の授業の充実	9
3	教員の資質向上	9
4	運動部活動の充実	9
5	体育的活動の充実	9
6	児童生徒の実態把握	9
7	保護者の意識啓発	9
8	関係団体との連携	9
9	子どものための体力向上サポートプラン 2018 推進プログラム	10
III	プランの重点事業	
<重点事業 1>	にぎなげプロジェクト（握力・投力）	11
<重点事業 2>	新体力アップメニュー	13
<重点事業 3>	体力アップキャンペーン	15
資料	子どものための体力向上サポートプラン 2018（概要）	17
	新体力テスト結果の推移（平成11年度～平成29年度）	18

I 子どものための体力向上サポートプラン 2018

1 これまでの成果と課題

- 小・中学校の男女とも「50m走」が全国平均と比較してよい結果である。
- 中学校の男女とも「持久走」が全国平均と比較してきわめてよい結果である。
- 1週間の総運動時間60分以上の児童生徒が増加した。
- 運動やスポーツに対する意欲において、肯定的に回答する児童生徒の割合が増加した。
- 小・中学校とも「握力」「ボール投げ」が全国平均と比較して低く、課題となっている。
(小学校5年、中学校2年対象の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から)

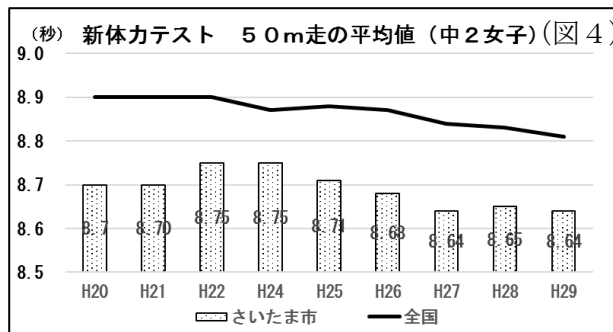
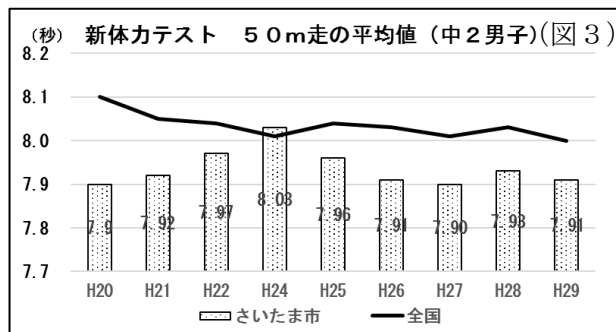
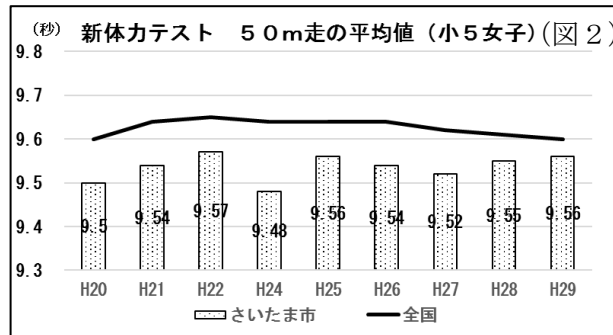
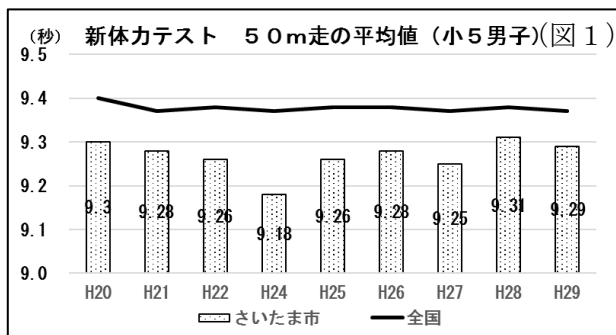
本市では、これまで「体力向上サポートプラン（平成19年度～平成25年度）」及び「体力向上サポートプラン（改訂版）（平成26年度～平成29年度）」に基づき、「体力アップメニュー」や「新体力アップメニュー」、「体力アップキャンペーン」に取り組み、児童生徒の体力向上に努めてきました。これまでの成果と課題としては、以下の点が挙げられます。

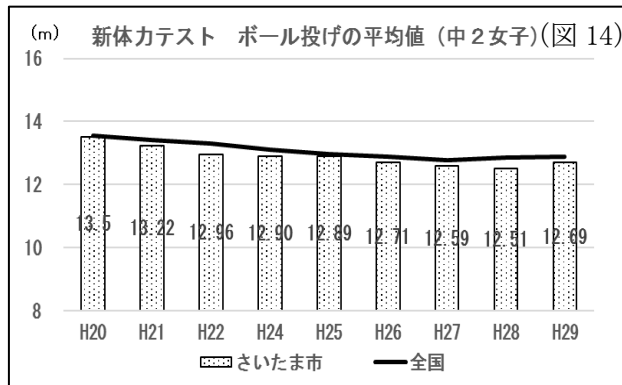
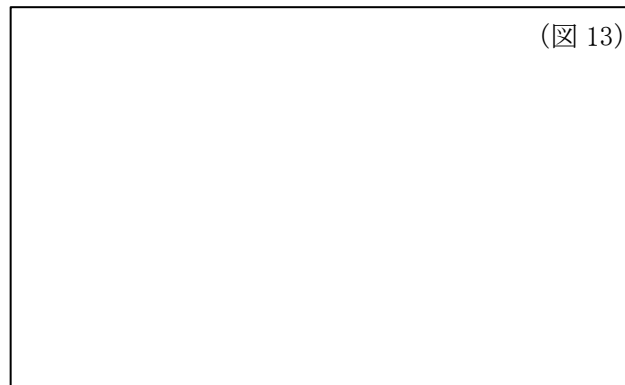
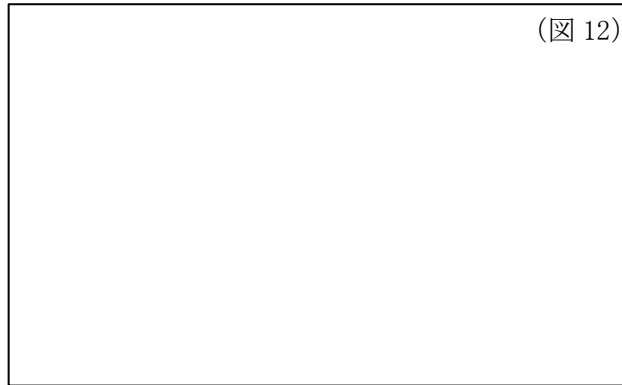
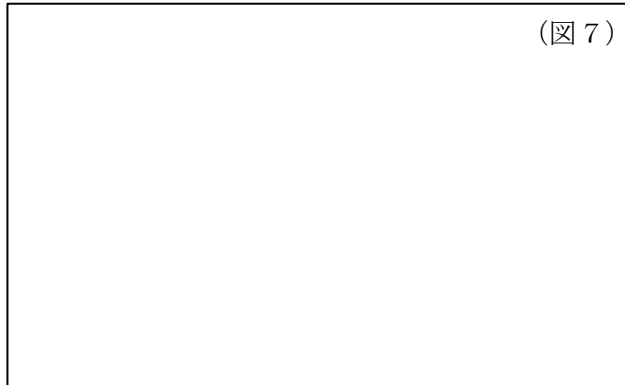
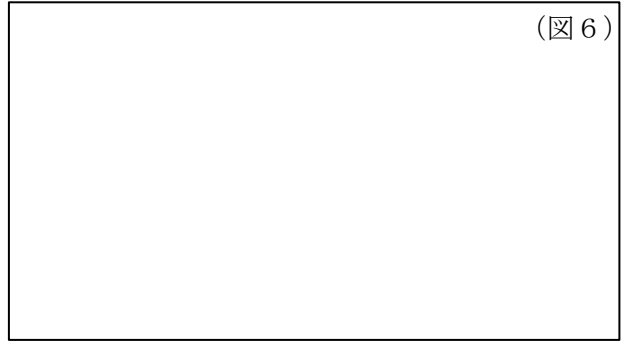
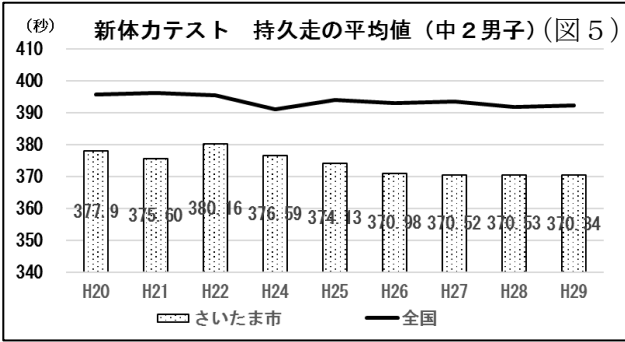
(1) 体力

小学校5年では、「上体起こし」「50m走」「立ち幅とび」、中学校2年では「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「持久走」「50m走」において、全国平均と比較するとよい結果が続いています。特に、「上体起こし」「50m走」は、小・中学校共通の成果となっています。(図1～4)

一方、小学校5年では、「握力」「長座体前屈」「ボール投げ」、中学校2年では「握力」「ボール投げ」において、全国平均と比較すると低い結果が続いています。特に、「握力」「ボール投げ」は、小・中学校共通の課題となっています。(図5～14)

なお、市立高等学校では、本市生徒の新体力テストの結果を全国平均と比較すると、ほとんどの種目で上回りよい結果となっています。しかし、今年度は、「握力」において、5つの学年が全国平均を下回り課題となっています。(図15～16)

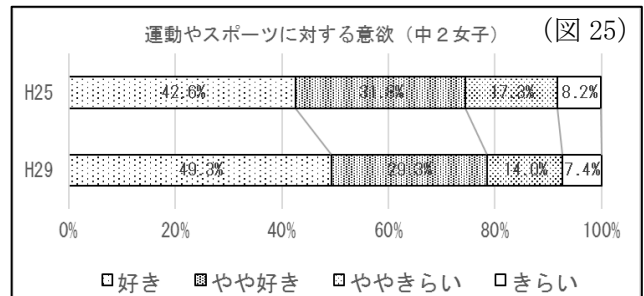
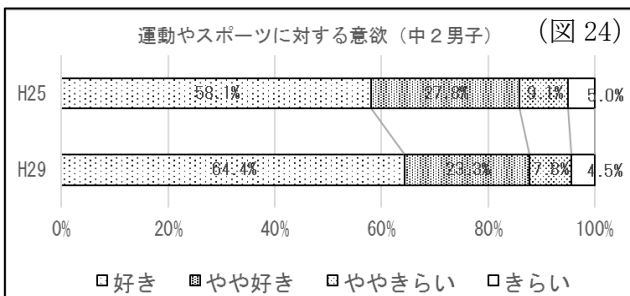
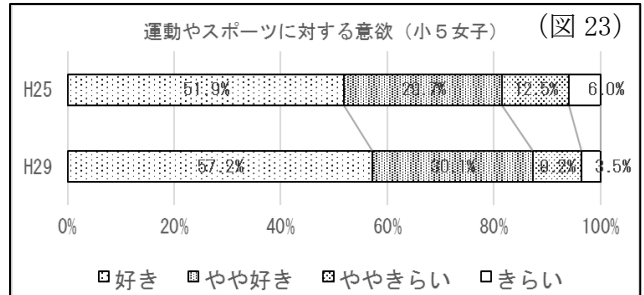
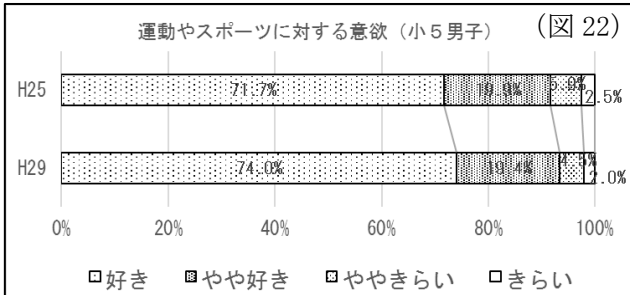




(3) 運動への意欲

全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、運動やスポーツに対する意欲について、「好き」又は「やや好き」と回答した児童生徒の割合は、平成25年度と比較して小学校男女、中学校男女とも増加しています。(図22～25)

しかし、中学校2年女子においては80%に達しておらず、全国と同様に、中学校2年女子の段階における運動やスポーツに対する意欲の向上が、課題となっております。



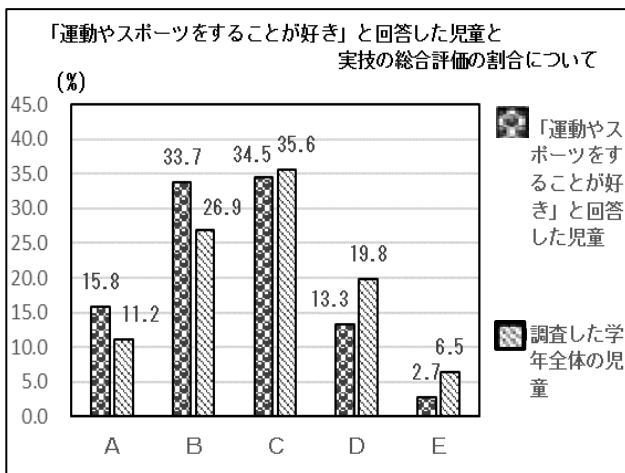
(4) 運動への意欲、運動習慣、実技の総合評価についてのクロス集計

①平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「実技の総合評価」と「運動やスポーツへの意欲」のクロス集計

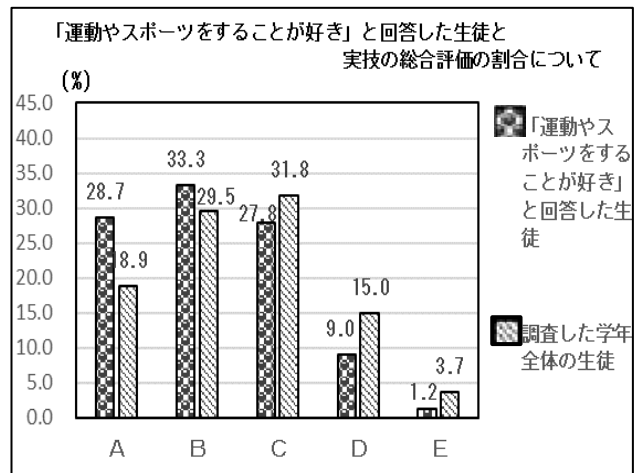
(※実技の総合評価：新体力テスト体力合計点の高い方からABCDEの5段階で評定した総合評価)

小・中学校ともに、運動やスポーツをすることが好きな児童生徒は、調査した学年全体の児童生徒に比べて、実技の総合評価のA評価とB評価の割合が高い。
 「好き」と回答した児童生徒は、調査した学年全体の児童生徒より、小学校では11.4ポイント、中学校では13.6ポイント高い。

【小学校第5学年】



【中学校第2学年】

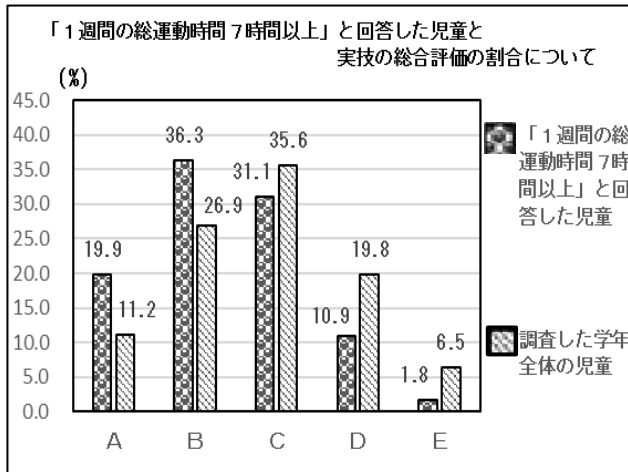


②平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「実技の総合評価」と「運動を行う習慣」のクロス集計

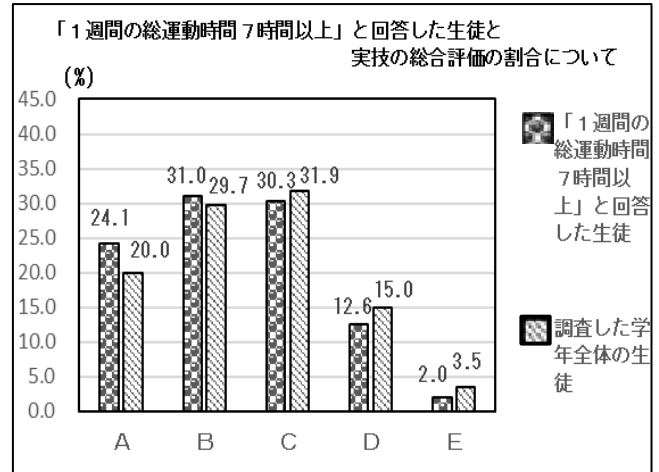
小・中学校ともに、運動やスポーツを1週間に7時間以上行う児童生徒は、調査した学年全体の児童生徒に比べて、実技の総合評価のA評価とB評価の割合が高い。

運動やスポーツを1週間に7時間以上行う児童生徒は、調査した学年全体の児童生徒より、小学校では18.1ポイント、中学校では5.4ポイント高い。

【小学校第5学年】



【中学校第2学年】



2 プランの基本方針

本プランは、「知」「徳」「体」「コミュニケーション」のバランスのとれた子どもをはぐくむことを目指す「さいたま市学校教育ビジョン」における「体」を担うプランです。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から、「運動やスポーツに対する意欲」「1週間の総運動時間」は「実技の総合評価」と関連がみられることから、本プランでは、学校・家庭・地域・行政が連携・協力して

- ①運動やスポーツをすることが好きで、運動やスポーツに進んで取り組む児童生徒
- ②現在身に付いている身体能力をより一層向上させていく児童生徒
- ③一部の種目に偏ることなく、バランスのよい体力を身に付ける児童生徒

をはぐくむことを通して、児童生徒の豊かなスポーツライフの実現を目指すことを基本方針としました。

特に、本市児童生徒の課題となっている「握力」「投力」を向上させ、バランスのよい体力を目指すため、これまでの重点事業である「新体力アップメニューを活用した授業づくり」「体力アップキャンペーンの推進」に加え、「にぎなげプロジェクト」を新たに重点事業とします。

また、東京オリンピック・パラリンピックを通して、児童生徒が「する・みる・支える・知る」のスポーツとの多様な関わり方を楽しむことやスポーツの意義や価値等に触れることで、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力をはぐくみ体力の向上を目指します。

3 プランの目的

本プランでは、子どもたち一人ひとりの体力向上を図り、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指すため、以下の目的を設定しました。

学校・家庭・地域・行政が連携・協力のもと、

豊かなスポーツライフの実現を目指すために、

子どもたちの体力向上を図ります。

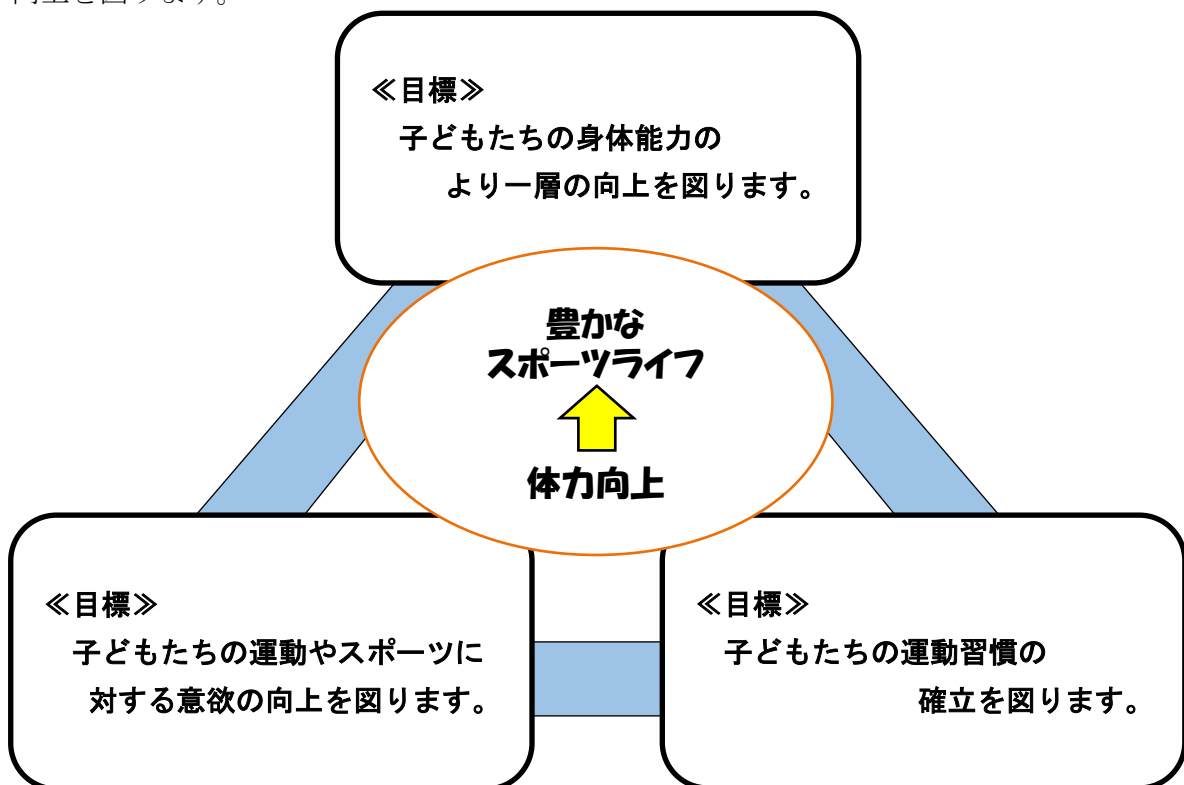
4 プランの目標

プランでは、目的を達成するために、以下の目標を設定しました。

子どもたちの

- 運動やスポーツに対する意欲の向上を図ります。
- 運動習慣の確立を図ります。
- 身体能力のより一層の向上を図ります。

運動やスポーツに対する意欲、運動習慣、身体能力が関わり合うことにより、相乗的に体力向上を図ります。



5 プランの指標

(1) 運動やスポーツに対する意欲の向上

さいたま市学習状況調査の質問紙調査の「運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合」が、平成33年度までに、小・中学校ともに、目標値を上回ることを目指します。

指標 1 「運動やスポーツに対する意欲」

	平成29年度さいたま市 (現状)	平成33年度さいたま市 (目標値)
小学校全学年平均	67.3%	70%
中学校全学年平均	56.5%	59%

※ 平成29年度さいたま市学習状況調査における小学校及び中学校の平均の結果に基づき、平成33年度の小・中学校全学年での割合を目標値として設定しました。

(2) 運動習慣の確立

さいたま市学習状況調査の質問紙調査の「運動やスポーツをどのくらいしていますか(学校の体育の授業を除く)」において、「ほとんど毎日(週に3日以上)」、「時々(週に1~2日)」と回答する児童生徒の割合が平成33年度までに、小・中学校ともに、目標値を上回ることを目指します。

指標 2 「運動を行う習慣」

	平成29年度さいたま市 (現状)	平成33年度さいたま市 (目標値)
小学校全学年平均	86.9%	89%
中学校全学年平均	73.6%	76%

※ 平成29年度さいたま市学習状況調査における小学校及び中学校の平均の結果に基づき、平成33年度の小・中学校全学年での割合を目標値として設定しました。

(3) 身体能力のより一層の向上

新体力テストの実技の総合評価(5段階)において、A評価、B評価の児童生徒の割合が平成33年度までに、小・中学校ともに、目標値を上回ることを目指します。

指標 3 「新体力テストの実技の総合評価(A評価+B評価)」





	平成29年度さいたま市 (現状)	平成33年度さいたま市 (目標値)
小学校全学年平均	35.7%	38%
中学校全学年平均	48.6%	51%

※ 平成29年度の新体力テストにおける総合評価の結果に基づき、平成33年度の小・中学校全学年での割合を目標値として設定しました。

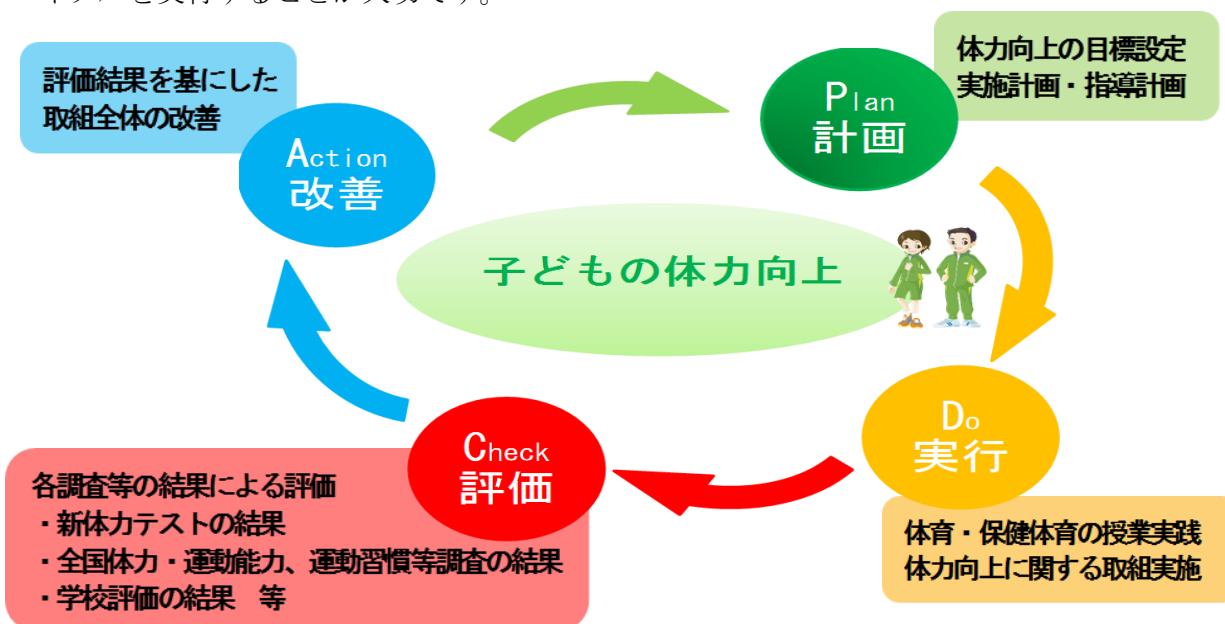
(4) 目標値に迫る際の留意点

各校においては、プランの趣旨、自校の児童生徒の体力の課題等を踏まえ、体力向上の目標を設定し、教育活動全体で児童生徒の体力向上に取り組むことが必要です。その取組を評価し、改善していくPDC Aサイクルを確立させることで、継続して児童生徒の体力向上に取り組むことが重要です。

PDC Aサイクルを実行する際の留意点として、以下のことが考えられます。

	<ul style="list-style-type: none">○各調査等の評価結果を基に、体力向上の目標、その目標を達成するための実施計画や指導計画を決定します。○「いつ」「どこで」「だれが」「どのようにして」目標を実現させるのか、全教職員で共通理解を図ります。
	<ul style="list-style-type: none">○必ずねらいを明確にして、授業、体育的活動、運動部活動等を中心に、学校の教育活動全体を通じて、全教職員で実践します。○本プランの重点事業をはじめとする各事業に基づき実践します。○児童生徒が「達成感」「充実感」を味わえるように実践します。
	<ul style="list-style-type: none">○新体力テスト、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を評価します。○児童生徒による自己評価や他者評価など、評価方法の工夫をします。○学校評価等を活用し、保護者、地域住民の声を取り入れる工夫をします。
	<ul style="list-style-type: none">○各調査等の評価結果を基に、学校における取組全体について、成果と課題を分析し、修正や変更を行うなど、必要な改善を行います。

なお、PDC Aサイクルは、年間を通した取組だけでなく、授業や体育的活動、健康安全・体育的行事等においても繰り返し行います。各取組を関連付けながら、継続的にPDC Aサイクルを実行することが大切です。



6 プランの期間

プランの期間は、平成30(2018)年度から平成33(2021)年度までの4年間とします。ただし、計画の進捗状況により、必要に応じて見直しを行います。